

特集

第14回果樹技術・経営コンクールについて

特集:

・第14回果樹技術・経営
コンクールについて p1

・平成24年度補正予算及
び平成25年度果樹対策
予算概算決定の概要につ
いて p3

中央果実協会からのお知らせ:

・平成24年度果樹経営支
援対策・未収益期間支援
事業の実施状況について
p5

・「アグリフード EXPO」大
阪 2013 への出展 p7

業務日誌: p8
お知らせ: p8

果物を食べて
応援しよう!

被災地を応援

去る2月22日に五反田「ゆうぽうと」において、第14回全国果樹技術・経営コンクール表彰式が、農林水産省大臣官房の雨宮生産振興審議官に出席いただき、盛大に開催されました。

本コンクールは生産技術や経営方式において他の模範となる先進的な農業者、集団組織等を表彰し、その成果を広く紹介することにより、我が国果樹農業の発展に資することを目的として平成11年度から実施しているもので、今回で14回目となります。

主催団体は、全国農業協同組合中央会、全国農業協同組合連合会、日本園芸農業協同組合連合会、全国果樹研究連合会及び公益財団法人中央果実協会の5団体です。



また、農林水産省と日本農業新聞社の後援をいただいております。

コンクールの審査は、5団体で実行委員会を構成し、実行委員会の中に学識経験者等で構成される審査会を設けて被表彰者の選定を行っています。

今年度の受賞者は別表のとおりですが、表彰式の最後に受賞者を代表して農林水産大臣賞を受賞された和歌山県の稲住昌広氏・由季氏が「受賞者のことば」を述べられました。

なお、農林水産大臣賞受賞者の概要は下記のとおりですが、各賞受賞者につきましては、3月末に当協会のホームページに掲載予定ですので、既に掲載されております第13回までの各賞受賞者の概要とあわせてご覧いただければ幸いです。



第14回果樹技術・経営コンクール受賞者一覧

農林水産大臣賞

氏名・集団名	住所	果樹
やまぐち ゆきお やまぐち みき 山口 幸夫 山口 美輝	うつのみやし 栃木県宇都宮市	日本なし
やまなしのうぎょうきょうどうくみあいひしやまししよるじ フルーツ山梨農業協同組合菱山支所露地ぶどう部 (代表者 飯島 太郎)	こうしゅうし 山梨県甲州市	ぶどう
うえにし まさあき うえにし ひとみ 上西 正晃 上西 仁美	ごじょうし 奈良県五條市	かき・キウイフルーツ・うめ等
いなずみ まさひろ いなずみ ゆき 稲住 昌広 稲住 由季	ありだぐん 和歌山県有田郡 ありだがわまち 有田川町	かんきつ

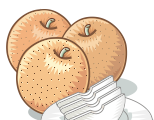
2 ■ 中央果実協会ニュースレター

氏名・集団名	住 所	果樹
農林水産省生産局長賞		
ひがしねかじ ゆげんきゅうかい おそ 東根果樹研究会・遅もぎラ・フランス出荷会 (代表者 たかはし けんじ 高橋 健治)	山形県東根市	西洋なし
ひろの しんいち ひろの 廣野 真一 廣野ゆかり	山梨県笛吹市	ぶどう
さいとう みつとし 齋藤 光俊	愛知県西尾市	日本なし
とつとり のうきようきようどうくみあい こおげしてんかじつふ 鳥取いなば農業協同組合 郡家支店果実部 (代表者 にしお あいじ 西尾 愛治)	鳥取県八頭郡八頭町	日本なし
みぞた けいすけ 溝田 敬介	福岡県八女市	ぶどう
やつなみ ひでとし やつなみ せつこ 八並 秀敏 八並 節子	長崎県佐世保市	かんきつ
団体賞		
全国農業協同組合中央会会長賞		
まの たかし まの いずみ 真野 高志 真野 泉	静岡県沼津市	かんきつ
みやざきちゅうおうのうぎようきようどうくみあい けんきゅうかい 宮崎中央農業協同組合 パパイア研究会 (代表者 たしろ としのり 田代 敏徳)	宮崎県宮崎市	パパイア
全国農業協同組合連合会経営管理委員会会長賞		
えづりこ か せいさんくみあい 江釣子わい化りんご生産組合 (代表者 たかはし けいじ 高橋 敬二)	岩手県北上市	りんご
しな じ ひでなお しな じ みちよ 品治 秀直 品治 美千代	香川県坂出市	かんきつ
日本園芸農業協同組合連合会会長賞		
おおつ ぶかい JA大津なし部会 (代表者 かわけん せいじ 川添 誠司)	徳島県鳴門市	日本なし
よねはな り はちろう よねはな りようこ 米花 利八郎 米花 良子	愛媛県八幡浜市	かんきつ
全国果樹研究連合会会長賞		
わたなべ ひろし 渡辺 洋	北海道余市郡仁木町	おうとう、プルーン・ぶどう等
ともだ あきひこ ともだ ゆうこ 友田 明彦 友田 裕子	大分県宇佐市	ぶどう
公益財団法人 中央果実協会理事長賞		
ゆうげんがいしゃ ほうしやう 有限会社 宝荘 (代表者 はなだ てつや 花田 哲也)	青森県弘前市	りんご

農林水産大臣賞受賞者概要

(敬称略)

やまぐち ゆきお やまぐち み き
山口 幸夫氏、山口 美輝氏
とちぎけんうつのみやし
○ 栃木県宇都宮市
(日本なし)



日本なし 330aを栽培する、なし専作経営である。

経営面では、ハウス栽培、晩生種導入による労働力分散、省力樹形、共有授粉樹園、棚整備や多目的防災網の共同作業の活用で省力化・規模拡大を実現している。

販売方法は、JA市場出荷 64%、直販所・インターネット通信販売 36%で、ジュース、紅茶・ドライフルーツなどの加工品開発で規格外品の有効利用と 6 次産業化を目指している。また、夫婦と両親の家族経営協定で、役割分担、毎月の専従者給与、8 時間労働、月 4 回の休日等を実践している。

技術面では、ハウス栽培を地域で最初に導入し、露地より 40 日早く出荷している。樹形が単純で作業がしやすく、植栽本数が 10a 当たり 56 本で従来より多く、着果負担が小さい「H型樹形」を導入している。

地域にあつては、農業後継者の研修、児童・生徒の農業体験、障害者の就労受け入れを実施している。

やまなしのうぎょうきょうどうくみあい
フルーツ山梨農業協同組合
ひしやまししょろじぶ
菱山支所露地ぶどう部
(代表者 いいじま たろう 氏)
○ 山梨県甲州市
(ぶどう)



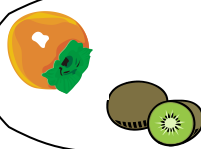
ぶどう 74ha、戸数 110 戸、出荷額約5億円のJA生産部会である。

経営面では、早くから「巨峰」・「ピオーネ」への転換を進め、約20年間全国でトップクラスの「種なしピオーネ」の産地を築いている。また、品種の組み合わせと冷蔵貯蔵施設等を活用した長期出荷、標高別の糖度・酸度調査による適期収穫、舟形袋利用の脱粒防止、生産者識別コードによるトレーサビリティなどにより高単価販売に取り組んでいる。

技術面では、県共進会において部会メンバーが農林水産大臣賞の 3 割強を受賞するなど、「菱山のぶどう」としてのブランドを全国的に確立している。また、全員がエコファーマーを取得し、防除日誌の作成、GAP の取り組みなど、食の安全・安心に取り組んでいる。

また、短梢剪定や花穂伸長技術を導入して、省力化に取り組んでいる。

うえにし まさあき うえにし ひとみ
上西 正晃氏、上西 仁美氏
○ 奈良県五條市
(かき、キウイフルーツ、うめ等)



露地かき 550a、ハウスかき 73a、キウイフルーツ 35a、うめ 100a、なし 10a合計 768aを栽培する果樹複合の大規模経営である。

経営面では、国営農地開発事業への入植、借地と購入で自宅周辺と車で 10 分以内に農地を集積するとともに、園地及び作業道整備により、スピードスプレーヤーなど 100%

の機械化、防霜ファン設置など超省力経営を実現している。また、時期が異なる複数品目、品種、ハウスの導入で作業の平準化を図り、出荷・入金時期の分散によりキャッシュフローが健全な経営を実現している。

また、家族の積極的参加により分担を決め、効率的な作業展開を図っている。

地域にあつては、多品目大規模経営の見本になるとともに、JAならけんハウス柿部会長、同青壮年部副会長として、地域農業を牽引している。

いなづみ まさひろ いなづみ ゆき
稲住 昌広氏、稲住 由季氏
○ 和歌山県有田郡有田川町
(かんきつ)



温州みかん 370a、中晩柑 50a、計 420aの大規模かんきつ経営である。

経営面では、スプリンクラー、スピードスプレーヤー(SS)、モノラック、園内道、移動式クレーン、家庭選別機の導入などで省力化を図っている。

また、10月の極早生みかんから4月の「不知火」まで、7か月間の長期間の出荷で労働力分散を図るとともに、家族経営協定を結び農作業を分担して合理化し、家族4人労働を中心に経営を展開している。

生産技術面では、県内で初めてみかんの「マルドリ栽培」(周年マルチ及び点滴かん水同時施肥法)を導入し、点滴かん水とみかんの高品質中玉生産のための後期重点の摘果により、木成り完熟などの高糖度生産を行うとともに、太枝の間引きや摘蕾により、隔年結果を是正し、毎年10a当たり平均4トンの安定多収を実現している。

また、園地ごとの品種系統の統一とSSの導入により農薬散布量の軽減を図るなど、品質と環境に配慮した経営を実施している。

地域にあつては、収益性の高い大規模かんきつ経営の実践が、後継者不足で苦戦する地域の刺激となり、模範となっている。

特集

平成 24 年度補正予算及び平成 25 年度果樹対策予算概算決定の概要について

農林水産省生産局農産部園芸作物課 生産専門官 相原 泰三

農林水産省の果樹対策事業の実施については、日頃から関係の皆様のご理解・ご協力を頂き、厚くお礼申し上げます。

さて、平成 24 年度補正予算については、平成 25 年 1 月 15 日に閣議決定され、同 2 月 26 日に可決成立されました。

また、果樹対策事業の平成 25 年度予算概算決定については、25 年1月 29 日に閣議決定されました。

本稿では、平成 25 年度果樹対策予算概算決定について、

主要果樹対策予算をご紹介しますと共に、関連予算の概要については、平成 24 年度補正予算も併せて記載し、果樹産地の発展に役立つと思われる最近のトピックスについてもご紹介いたします。

1 平成 25 年度主要果樹対策予算の概要

果樹農業については、計画的な生産により需給の安定を図るとともに、産地の体質強化・構造改革を進めることが重要な課題となっています。これらの課題に対応するため、

国では果樹農業振興特別措置法に基づく「果樹農業振興基本方針」を策定し、平成 23 年度から、以下の 4 本柱からなる果樹対策事業を実施しています。

- (1) 優良品種・品目への転換のために改植を実施した際に発生する未収益期間への対策
- (2) 果樹産地の構造改革を推進するための果樹経営支援対策
- (3) 生産者の自主的な取組を基本とした果実需給安定対策
- (4) 需要に即した流通加工等の推進を図る果実流通加工等対策

平成25年度においても、引き続きこれらの事業を効果的に実施していくこととしており、概算決定額は、(1)が30億円(果樹と同じ永年生作物である茶の対策と合わせた金額)、(2)から(4)が38億円の合計68億円となっています。

本事業の執行については、公益財団法人中央果実協会や都道府県法人の皆様と連携しながら、円滑かつ効率的に実施できるよう、工夫していきたいと考えております。皆様方のご協力をお願いいたします。

なお、このほか青果物の消費拡大対策に係る以下の予算が概算決定されています。

○日本の食を広げるプロジェクト 40 億円(一)

国内外の食に対する多様な関心の高まりを活用して国産農林水産物の消費拡大を図るため、現場発の自由な発想で国産農林水産物・食品とこれに関連する多様なモノ・サービスとを結びつけた消費拡大の取組が予算化され、この中で、青果物(野菜・果実及びその加工品)の消費拡大の取組も支援します。

なお、以上の予算について、お問い合わせ等ございましたら、当課(電話:03-3502-5957)までご連絡ください。

2 その他果樹関連予算

果樹に限った対策ではありませんが、果樹農業に関連する主な予算として以下のようなものがあります。

詳細については、農林水産省のホームページの「平成 24 年度農林水産関係補正予算の概要」(<http://www.maff.go.jp/j/budget/2012/hosei.html>)、「平成 25 年度農林水産予算概算決定の概要」<http://www.maff.go.jp/j/budget/2013/kettei.html> に掲載されていますので参考にしてください。

(以下の各予算の紹介文の()は 24 年度当初予算、【 】は平成 24 年度補正予算、< >内の番号は該当のホームページ上の番号を示します。

なお、平成 24 年度補正予算を対象とした 1~3 月と平成 25 年度予算を切れ目なく執行できる「15 ヶ月予算」の編成となっています。

(1) 平成 24 年度補正予算

①燃油価格高騰緊急対策 【24 補正:425 億円】<10>

農業者の初期投資の負担を軽減するリース方式により、ヒートポンプ、木質バイオマス利用加温設備等の施設園芸省エネルギー設備の導入支援及び施設園芸用の燃油価格が一定基準以上に上昇した場合に補てん金を交付するセーフティネットの構築を支援。

(2) 平成 25 年度予算概算決定及び平成 24 年度補正予算

①強い農業づくり交付金 244 億円(21 億円)【215 億円】<5>

国内農畜産物の安定供給のため、生産から流通までの強い農業づくりに必要な共同利用施設の整備等を支援。

②経営体育成支援事業 47 億円(63 億円)【34 億円】<8>

地域の中心経営体等(重大な気象災害による被災農業者を含む。)に対し農業用機械等の導入を支援。

③新規就農・経営継承総合支援事業 239 億円(136 億円)【99 億

円】<16>

青年の就農意欲の喚起と就農後の定着を図るための就農前後の青年就農者・経営継承者への給付金の給付、青年の農業法人への雇用就農を促進するための実践研修等への支援、地域農業のリーダー人材の層を厚くする農業経営者教育の強化。

④耕作放棄地再生利用緊急対策交付金 45 億円(35 億円)

<18>

荒廃した耕作放棄地を再生利用するための雑草・雑木除去や土づくり等の取組への支援。

⑤農山漁村の所得増大対策

<25>

・農林漁業成長産業化ファンドの本格始動 350 億円(300 億円)【100 億円】

株式会社農林漁業成長産業化支援機構を通じて、農林水産物等の特色を活かしつつ、1次産業から 2 次・3 次産業を通じて消費者までのバリューチェーンを築く事業活動に対し、資本の提供と経営支援を一体的に実施。

・6 次産業化支援対策 37 億円(36 億円)【40 億円】

地産地消、6 次産業化等の取組を推進するため、取組を先導する人材の育成・派遣、ネットワークによるプロジェクトの調査・検討、プロジェクトに必要な機械・施設整備や新商品開発・販路開拓等の取組を支援。

⑥鳥獣被害防止総合対策交付金 95 億円(95 億円)【129 億円】<41>

地域ぐるみの被害防止活動や侵入防止柵の整備、都道府県が主導して行う広域捕獲活動等の取組を支援。

⑦産地活性化総合対策事業 23 億円(53 億円)<44>

産地の収益力を向上させるため、生産技術力の強化、有機農

業の推進、サプライチェーンの構築、地域バイオマスの利活用、経営資源の有効活用等を支援。

産地活性化、経営資源の有効活用等に必要な農畜産業機械等をリース方式で導入する場合の負担を軽減。

⑧農林水産物の生産・流通の場における食育の推進 8億円(1億円)<51>

食料の生産から消費にわたる各段階で、農林漁業者・食品関連事業者等と連携し、消費者の食生活改善を促す実践的取組や、農林漁業に触れながら食や農への理解を深める食育を実践する地域の継続的な活動を支援。

3 果樹産業の発展に役立つと思われる技術や取組について

新しい果樹品種や栽培技術の開発が進められています。また、担い手支援や果実の消費拡大のための取組が進められています。これらの取組により果樹産地の発展につながることが期待されます。

(1) 果樹研究所の「育成品種の紹介」や「果樹研究所一押し旬の話題」では、果樹研究所で育成した品種や研究成果などを紹介しています。

「育成品種の紹介」(<http://www.naro.affrc.go.jp/org/fruit/kih/index.html>)

「一押し旬の話題」(<http://www.naro.affrc.go.jp/fruit/itiosi/index.html>)

(2) 農業新技術 200X

農林水産省では、近年の研究成果のうち、早急に現場に普及すべきものを毎年選定し、「農業新技術 200X」として公表しています。 http://www.s.affrc.go.jp/docs/new_technology.htm

果樹農業に関しても、うんしゅうみかんの浮皮軽減

技術、ぶどうの花穂整形器、操作しやすく果樹の管理作業の安全性を高めた高所作業台車など、品質向上や省力化に役立つ技術を選定・紹介しています。

(3) 担い手、新規就農支援

農業者戸別所得補償制度や認定農業者、集落営農、農業法人等や新規就農支援に関する情報を紹介しています。

担い手支援

http://www.maff.go.jp/j/kobetu_ninaite/index.html#ninaite

新規就農支援

http://www.maff.go.jp/j/new_farmer/index.html

(4) 果実の消費拡大等

果物の持つ素晴らしさをより多くの消費者の皆様に知ってもらうことを目的に、「毎日くだもの 200 グラム運動」及び「国産果実の持つ栄養・効能や機能性」の普及・推進を中心としたさまざまな広報活動を展開するため「日本くだもの農協」のホームページ <http://kudamono-noukyo.com/> が開設されました。

また、果樹試験研究推進協議会(<http://www.kasuikyo.jp/>)では、みかんに含まれる機能性成分 B-クリプトキサンチン等の果物と健康に関する研究成果発表会・ミニシンポジウムを随時開催しております。

今後とも、果樹支援対策等の施策を通じて、果樹農業者の方々の経営安定と果実生産出荷の安定を図り、果樹産地計画の実現に向けて支援していくこととしておりますので、引き続き関係の皆様におかれましては、ご理解とご協力を頂きますようお願いいたします。



中央果実協会からのお知らせ



平成 24 年度果樹経営支援対策・未収益期間支援事業の実施状況について

1. 平成24年度事業計画の概要

平成24年度の果樹経営支援対策・未収益期間支援事業の第1次及び第2次を併せた事業計画(承認ベース)がまとまりましたので、その状況を掲載します。

なお、本事業については、事業計画が策定され

た年度及び次年度に事業が実施可能となっており、平成24年度における事業実績とは異なることにご留意願います。

(1) 平成24年度の経営支援対策事業計画承認状況については、補助金の総額は26億62百万円であり、その内訳は、整備事業が25億61百万円、推進事

図1

整備事業のうち改植事業

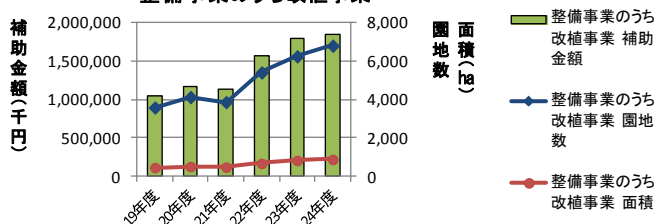


図2

改植を除く整備事業計

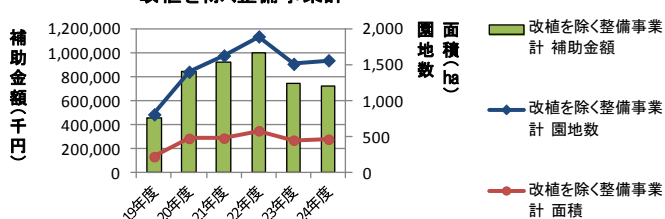


図3

整備事業総合計



図4

未収益期間支援事業

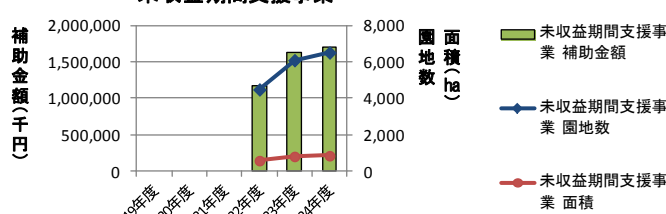
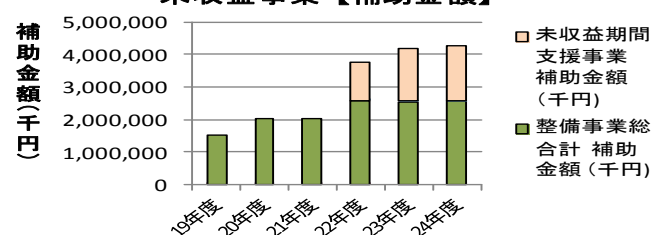


図5

経営支援(整備事業)＋未収益事業【補助金額】



業が50百万円、推進事務費が51百万円となっています。

整備事業を全体計でみると、改植・高接ぎが18億42百万円で整備事業全体の72%、次いで用水かん水施設10%、園内道路8%、モノレール5%等その他の整備事業が7億19百万円となっています。

整備事業に係る補助金の総額を道府県別にみると、青森県が4億68百万円と最も多く、次いで、和歌山県、熊本県、愛媛県、長野県の順となっています。

前年度と比較すると、整備事業の補助金総額(前年度25億41百万円)はほぼ同額となっていますが、改植・高接(同18億2百万円)がやや増となる一方、その他の整備事業(同7億39百万円)がやや減となっています。これは、23年度から果樹未収益期間支援事業が開始されたこと等により、改植への取組が促進されたためと考えられます。

また、推進事業をみると、大苗育苗ほの設置が補助金額で全体の95%を占めており、他の事業項目としては、新技術の導入支援、販売開拓の推進強化が取り組まれています。

以上のように、いわゆる果樹の主産県を中心として、産地の生産体質をより強化するため、積極的な事業展開が図られています。

(2) 果樹未収益期間支援事業については、平成24年度は事業実施2年度目となります。昨年度は、平成22年度の経営支援対策事業における改植事業分についても未収益期間支援事業の対象となりましたが、平成24年度においては、果樹経営支援対策事業のうち平成24年度に計画承認された改植等に取り組む支援対象者を承認しています。

なお、平成24年度から、本事業の対象に、東日本大震災農業生産対策交付金により放射性物質の吸収抑制のための改植に取り組んだ者を追加しました。

2. 経営支援対策・未収益期間支援事業の推移

平成19年度から果樹経営支援対策事業、平成23年度から果樹未収益支援対策事業が開始されました。平成24年度までの事業計画を基にした実施面積、補助金額の推移をみたのが図1～5です。改植事業については、平成21年度に前年度を下回った以外は、面積、補助金額ともに増加しています。一方、改植を除く整備事業については、平成22年度をピークにここ2年間減少しています。これらを併

せると、整備事業合計の補助金額は25億円台で横ばいとなっています。

未収益期間支援事業については、平成22年度改植分から事業対象となったことから、当該年度以降の改植面積の増加に比例して、漸増傾向が続いています。

3. 平成25年度事業に向けて

経営支援対策事業が開始されて6年が経過し、果樹産地では、果樹産地構造改革計画に基づく担い手育

成、需要に即した品種・品目への改植、生産体制の強化等の取組が実施されています。現行の事業は平成26年度までの枠組みで実施されているところであり、残す2年間、引き続き積極的な事業の推進を図っていただきたいと思います。

なお、農林水産省における次期対策の検討の参考にもしていただくため、これまでの取組に関する成果と課題について調査を行うこととしておりますので、ご協力方よろしくをお願いいたします。

(別表1) 年次別(H19~24)事業の推移(計画承認ベース)

		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
1 整備事業のうち改植事業	園地数	3,576	4,120	3,858	5,403	6,242	6,795
	面積 (ha)	449	498	469	662	816	869
	補助金額 (千円)	1,048,566	1,168,672	1,121,990	1,573,115	1,799,550	1,839,907
2 改植を除く整備事業計	園地数	808	1,401	1,627	1,893	1,511	1,561
	面積 (ha)	219	473	477	579	448	461
	補助金額 (千円)	448,500	838,276	917,552	996,254	741,964	721,050
3 整備事業総合計	園地数	4,384	5,521	5,485	7,296	7,753	8,356
	面積 (ha)	668	971	948	1,241	1,264	1,330
	補助金額 (千円)	1,497,066	2,006,948	2,039,542	2,569,369	2,541,514	2,560,957
4 未収益期間支援事業	園地数				4,487	6,091	6,510
	面積 (ha)				585	815	854
	補助金額 (千円)				1,172,425	1,629,491	1,703,959
5 経営支援(整備事業)+未収益事業	補助金額 (千円)	1,497,066	2,006,948	2,039,542	3,741,794	4,171,005	4,264,916

「アグリフードEXPO」大阪 2013 への出展

当協会では、果実加工需要対応産地育成事業(新需要開発型)を通じて国産果実を使った加工品の試作開発を支援してきております。今回初めて、本年度の事業実施団体を中心に、これまで支援した団体を含め合計 14 団体が、当協会との共同出展者という形で出展し、国産果実加工品の一層の普及・拡大を図

るとともに実需者ニーズを把握しました。

各出展団体は、本事業により開発した果実加工品に加えて自社開発商品も出展し、バイヤーとの商談や情報交換等を積極的に行いました。今回の EXPO の概要は下記のとおりです。

<「アグリフード EXPO」大阪 2013 の概要>

- 日時:平成 25 年 2 月 21~22 日
- 会場:アジア太平洋トレードセンターATC ホール(大阪市住之江区南港北)
- 出展者:農業者、食品産業、関連企業等 492 社
- 来場者:小売業(食品)、商社、卸売業・流通業、外食業、中食業、食品加工・製造業、農業団体、行政機関等
- 来場者総数:14,562 人

(公財)中央果実協会

編集・発行所

公益財団法人 中央果実協会

〒107-0052

東京都港区赤坂 1-9-13
三會堂ビル 2F電話：03-3586-1381
FAX：03-5570-1852

編集・発行人

中山 尊裕

印刷・製本

(株)丸井工文社



当協会 Web サイト

URL:

www.kudamono200.or.jp

<参加団体・出展商品一覧>

実施者	備考
三重県農業研究所紀南果樹研究室 (三重県)	シマサルナシシャーベット、アテモヤほか
パインテールファーム (長崎県)	びわ、かんきつ、ぶどう(ジャム、ドライフルーツ使用のフルーツチーズ)
芸南農業協同組合(広島県)	じゃぼん(ジャム、ジェラート、清涼飲料水、漢方、化粧品)
合同会社 Fe センス(島根県)	ララベリー(桑実)(糖衣グミ、ドライパウダー)
「あおり24」生産・利用研究会 (青森県)	りんご「あおり24」を使ったジャム、ジュース、ブレザーブ(加糖、無糖)
福岡県農業総合試験場 (福岡県)	イチジク饅頭「熟おひとつ」、柑橘を使ったマーマレード
田島柑橘園&加工所(佐賀県)	クレメンティン、ジャバラ、ポンカン、サガンルビーを使った食用にも供するアロマオイル
小島食品製造(株)(愛知県)	ぶどうジュース、ジャム(いちじく、ぶどう、キウイ)
(株)アグリサポートみっかび・JAみっかび (静岡県)	青みかんオイルを原料としたエッセンスほか
静岡県農林技術研究所(静岡県)	キウイフルーツ(ジャム)、すもも梅酒
田中酒造(株)(北海道)	北海道産果実のお酒、飲料
(有)日本漢方医薬研究所 (徳島県)	クココンフィチュール、クコシロップ、不知火コンフィチュール
紀の里農業協同組合(和歌山県)	はっさくジャム、缶詰ほか
(有)ほし(長野県)	アイスマルク(ブルーベリー、りんごなど)

お知らせ

第 14 回全国果樹技術・経営コンクール表彰式が去る 2 月 22 日に五反田「ゆうぼうと」で開催されました。受賞された皆様におかれましてはおめでとうございます。

平成 25 年度も引き続き当コンクールを予定することとしておりますので、推薦・応募につきましてよろしくお願い申し上げます。

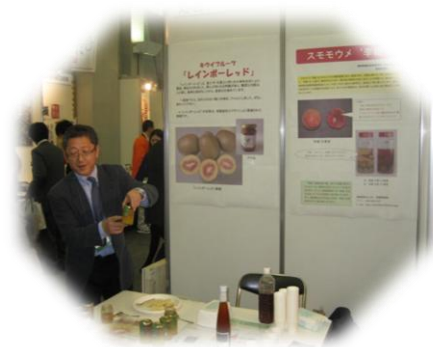
■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■

毎日くだもの 200 グラム運動メールマガジン「くだもの&健康ニュース」を発刊しています。

多くの方の読者登録をお待ちしております。

メルマガの読者登録方法は当協会下記ホームページをご覧ください。

<http://www.kudamono200.or.jp/JFF/>



業務日誌

25. 2.21 平成 24 年度道県果実基金協会業務運営協議会(於 日本自転車会館)
25. 2.22 第 14 回全国果樹技術・経営コンクール表彰式(於 ゆうぼうと)